

## 鹿児島大学病院

研修医 小林 由右子 2013年8月

鹿児島大学病院桜島プログラム初期研修医2年目の小林由右子と申します。

昨年4月から今年7月まで、大学病院で研修してきたので、今回は初めての大学外の病院での研修となり、かなり緊張しておりました。

まず一番に印象に残っているのは、野田診療所の夜間一次救急外来です。医療センター外科の岡村茂樹先生の指導の元でした。

大学では外来で予診をとることがあっても、最初から最後まで一人で診ることはありませんでしたので、初日は岡村先生が到着されるとすぐに、救急外来が初めてということをお伝えしました。

待機室ではいろんな本を読んで頭の中でシミュレーションしたり、メールで、友達や先輩に相談しましたが、なんと初日は患者さんはゼロで、最後は気疲れしていました。

しかし、ようやく翌週には、到着するなり患者さんはどんどんやってきて、小児の発熱や腸重積疑い、熱中症、めまい、などたくさんの症例を診ることができ、処方も教えていただきながら、医者になり初めて最初から最後までを診ました。医療センターで小児科外来で永田先生のされていた診察や問診を見よう見まねで野田診療所でもやっていました。

地域医療では大学では考えられないくらいに患者さんとの距離が近く、先生方はとても人情味溢れた診察をされているのだとわかりました。

上場診療所では、山奥で待っている患者さんの診察をして薬を届け、野田や高尾野診療所では、往診で病気だけでなく患者さんの生活、家族についても気にかけてアドバイスをするなど、密接な関係がありました。

宗清先生や経営企画課の皆様は、一人で研修している私を常に心配してくださいました。

病院内では必ずすれ違うときにスタッフの方は挨拶をしてくださり、とても心が温かくなりました。

診療所間を移動する時には仲間もおらず心細いときもありましたが、地域枠の医学部学生さんの飯屋遥香さんがいてくれたので、かなり心強く、楽しく過ごせました。

まだまだ時間は足りないくらいですが、この出水で学んだことはこの先一生役立つと思いますし、絶対に忘れられない日々になりました。

総合内科、小児科、脳神経外科の先生方、宗清先生、米澤さんを始めすべてのスタッフの方々、大変お世話になりました。ありがとうございました。